

粉好きの系譜 第 20 回

国産コムギ，誰が作った

前回「国産コムギ」のことを書いたので，再び日本のコムギについて．コムギの日本への渡来の時期はわからないのだが，ちょっとおもしろいことを聞きつけたので紹介しておこう．関西のとある遺跡で，5 世紀ころのコムギの種子が見つかった．それも相当量に上るらしい．その頃には今の関西地方にもコムギがあったとみるのが妥当だろう．この頃はまだ「裏作」のないとされる時期だ．いったいどこで誰がコムギを作っていたのだろうか．

気になることに，関西の一部地域ではこの時期になると馬が飼われていたような痕跡がある．牛馬は，数頭の単位では世代を超えて飼育することができない．個体数が少ないと，近親結婚の弊害でよい子が生まれにくいからだ．となると，相当数，それも 1000 頭単位で馬が飼われていたのかもしれない．こう考えてゆくと「想像の連鎖」が起きて話はどんどん空想の世界を飛び回る．「当時の生駒山は禿山だった」という人もいて，気候変動のせいではないかともいわれてきたのだが，そこは牧場だったのかもしれない．

関西には，大陸から渡来した人びとのものと思われる集落もあって，そこが古くから海を越えた交流が盛んであった土地であったとも思われる．奈良盆地，その南部に広がる飛鳥地方では，古代以前に「蘇」とか「醍醐」といわれる，乳製品と思われる食べ物があったことが知られている．京都市北区にある上賀茂神社では，いつの時代からか，ニンニクが神饌の材料として使われている．小麦，乳製品，ニンニク．こう来ると，それはもう牧畜を営む人びとの食材のようにも思われる．

歴史学者であった故江上波夫さんが唱えた「騎馬民族征服王朝説」を信じる人は今はいないが，騎馬民族が日本の王朝を作ったかどうかはともかく，やはり少なくない騎馬民族が当時の日本列島にいたのかもしれない．そして問題は，彼らが生物学的にはどんな人びとであったか，ということである．国産コムギの話は，かくして古代の日本とアジアを繋ぐ壮大の歴史ロマンへと発展するのである．